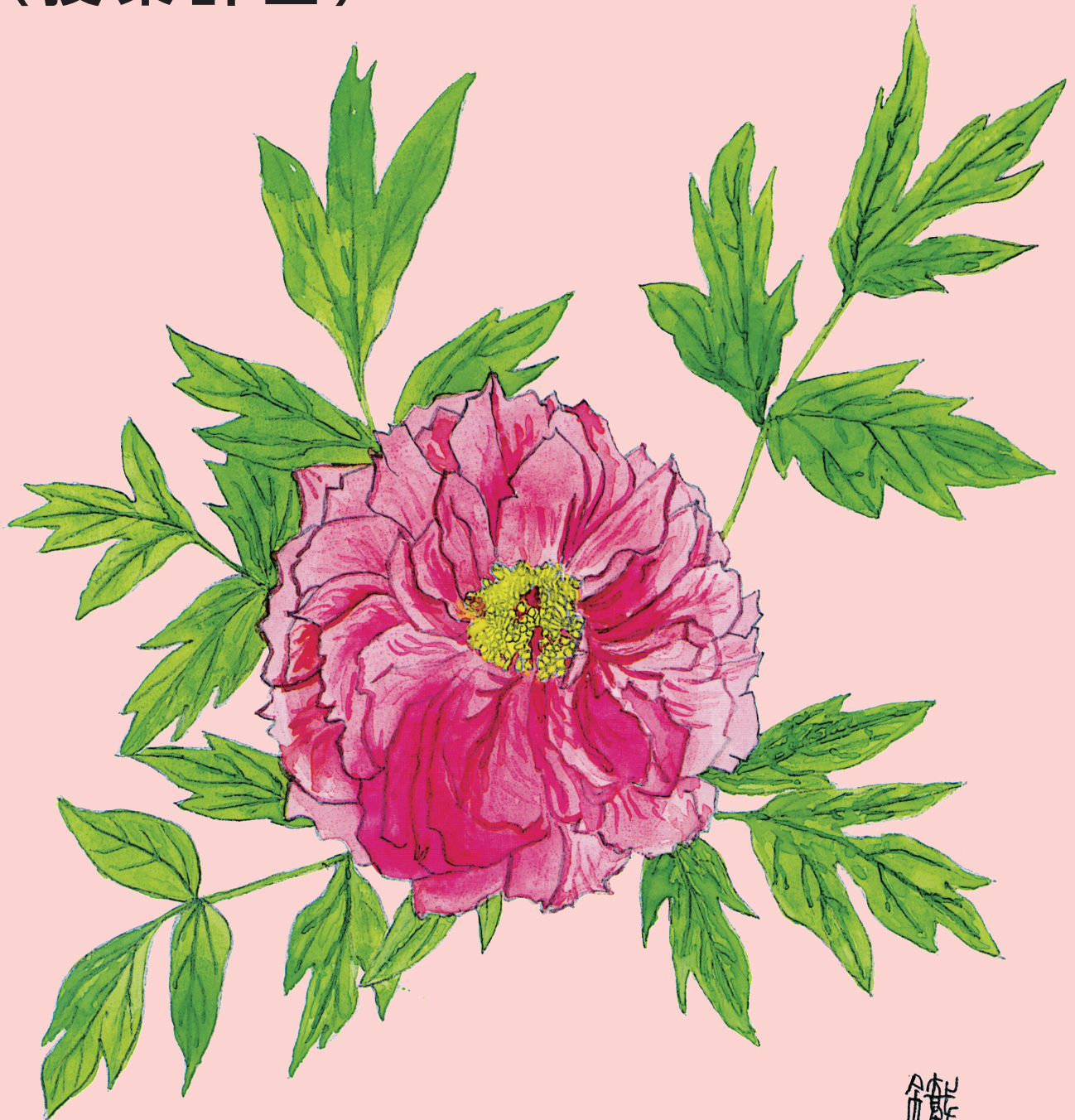


Syllabus 2023

(授業計画)



金



東北大学大学院薬学研究科

Paeonia suffruticosa Andr.
H 3. 5. 16

ボタン

Paeonia Suffruticosa Andr. (ボタン科)

5月に咲くボタンの花は、日本では「立てば芍薬 座れば牡丹」と美人を形容する言葉に用いられるほど、実に豊麗で美しい花です。中国ではこの花に百花の王、富貴花、洛陽花などの雅号を与えて観賞用とし、これをよんだ詩も多く残されています。

ボタンは中国原産の落葉低木で、神農本草経にも記載されている漢方の要薬です。栽培も古くから行われたらしく、最初は薬用として起こったもので、日本での栽培は聖武天皇（724～749）の時代ということになっています。最も盛んになったのは江戸時代にはいつてからで、宝永年間にはその品種も43種あったということです。

花期に蕾を取り除き根の発育をよくし、苗から4～5年目の秋に掘りとり、水洗後、皮を裂いて木部の芯を除き、皮を10cm位に切って日干しにしたものが香気の強い生薬牡丹皮です。

成分はペオノール、ペオノライドなどで、漢方では抗炎症、駆瘀血、通経、排膿などの目的で大黄牡丹皮湯などの処方に配合され用いられています。

表紙絵は昭和58年度に定年退官された加藤鐵三名誉教授が描かれたものであり、上記の解説文は加藤徳子夫人が「宮城県薬用植物園の草花」に記されたものの一部です。

令和5年度 大学院授業時間割

	第 1 学 期		第 2 学 期	
	9:00～12:00	18:00～19:30	9:00～12:00	16:20～17:50
月	薬効学特論 (秋田) 4月10日～5月15日 <u>オンライン (講義室なし)</u>		医療薬学特論 DC医療薬学特別講義Ⅰ (松本) 10月2日～12月25日 <u>第1小講義室</u>	
火	生物化学特論 (倉田) 6月5日～7月10日 <u>第1小講義室</u>			
水	8:50～10:20 免疫科学特論 【免疫科学】 (医学系研究科教員) 4月11日～6月20日 原則、対面 <u>医学系研究科第1セミナー室</u> <u>(教育研究基盤支援棟2階)</u>		応用生化学特論Ⅱ 【大学院生化学合同講義】 (松沢) 9月～12月 <u>オンライン予定 (講義室なし)</u> 対面の場合は <u>青葉山コモンズ大講義室</u>	
木	応用生化学特論Ⅰ 【大学院生化学合同講義】 (松沢) 4月～7月 <u>オンライン予定 (講義室なし)</u> 対面の場合は <u>青葉山コモンズ大講義室</u>	分子解析学特論 (金野) 5月13日～6月24日 <u>大講義室</u>	応用医療薬学特論 DC医療薬学特別講義Ⅱ (高橋) 4月13日～8月3日 <u>オンライン予定</u> 対面の場合は <u>医学系研究科セミナー室2</u> <u>(教育研究基盤支援棟2階)</u>	医薬品化学特論 (徳山) 10月5日～11月1日31 <u>第1小講義室</u>
金	有機化学特論 (吉戒) 6月1日～7月20日 <u>第1小講義室</u> ※6/29、7/6は情報教育室(C棟1階)	13:00～14:30 有機化学特論A 【大学院有機化学系合同講義】 (土井) 4月14日～8月4日 各回で実施方法が異なる 対面の場合は <u>理学研究科大講義室</u>	14:40～16:10 食と農免疫特論 【食と農免疫合同講義】 (倉田) 4月～(未定) <u>オンライン (講義室なし)</u>	13:00～14:30 有機化学特論B 【大学院有機化学系合同講義】 (吉戒) 10月6日～2月9日 各回で実施方法が異なる 対面の場合は <u>理学研究科大講義室</u>
			13:00～14:30 有機化学特論B 【大学院有機化学系合同講義】 (吉戒) 10月6日～2月9日 各回で実施方法が異なる 対面の場合は <u>理学研究科大講義室</u>	医用オミクス特論 【生体分子解析学概論】 (眞野) 10月13日～12月15日 <u>東北大学病院</u> <u>東病棟2階薬剤部セミナー室</u> <u>(必要に応じてオンラインに変更</u> <u>となる場合あり)</u>

備 考

1. () 内は代表担当教員、網掛け下線部は講義室名を示す。
2. 講義日程及び講義室等は、変更することがある。
3. Webによる登録期間(第2学期も含む) 4月10日(月)～21日(金)
4. 自由聴講科目の履修を希望する場合は、履修登録期間内に薬学研究科教務係に申し出ること。

大学院 特論のレポート提出について

以下の要領でレポートを提出すること。レポートを提出しない者は、単位を修得することはできない。レポートには、自分自身の考えに基づき、独自の内容を書くこと。既存の文章や情報を、適切な引用を行わずにレポートに記載する「盗用」は不正行為の一つで有り、当該特論の単位を無効とする。なお、特論の成績評価について疑義がある場合は、成績発表後すみやかにそれぞれの科目の代表担当教員に申し出ること。

1. 医療薬学特論（医療薬学特別講義Ⅰ）、分子解析学特論、薬効学特論、生物化学特論、応用医療薬学特論（医療薬学特別講義Ⅱ）、医療薬学特別講義

（１）レポート内容

医療薬学特論（医療薬学特別講義Ⅰ）、分子解析学特論、薬効学特論、生物化学特論、応用医療薬学特論（医療薬学特別講義Ⅱ）に関しては、以下のセミナー、発表会、シンポジウムで行われる講演のなかから、履修特論毎に１講演を聴講して、その講演内容、感想・意見を2,000字以上でまとめること（英語で提出する場合は、レポート用紙２ページ程度にまとめること）。

医療薬学特別講義に関しては、１０講演を聴講して、それぞれの講演内容、感想・意見を2,000字以上でまとめること（英語で提出する場合は、レポート用紙２ページ程度にまとめること）。

1. 薬学研究科内で開催されるセミナー
2. 東北大学内で開催されるシンポジウム等のうち、薬学研究科教務委員会においてレポート対象として認めたもの
3. 薬学研究科博士論文発表会（論文博士または課程博士発表会で、所属分野以外の学位申請者の講演）

（２）様式

A４版用紙（横書き）。表紙は本研究科所定の様式を用いること。

（３）提出期限

- 分子解析学特論、薬効学特論、生物化学特論、応用医療薬学特論（医療薬学特別講義Ⅱ）
 - ✓ １学期開講の科目：令和５年 ９月 ８日（金）１７時
 - ✓ ２学期開講の科目：令和６年 ２月１６日（金）１７時
- 医療薬学特論（医療薬学特別講義Ⅰ）、医療薬学特別講義
令和６年 ２月１６日（金）１７時

2. 応用生化学特論Ⅰ、応用生化学特論Ⅱ

（１）レポート内容

- ① １科目につき２報のレポートを提出すること。
- ② 講義題目のうち２題を選択し、各々の講義内容、感想・意見を2,000字以上でまとめること（英語で提出する場合は、レポート用紙２ページ程度にまとめること）。
- ③ 薬学研究科に所属する教員以外の講義題目を選択すること。

(2) 様式

A 4 版用紙（横書き）。表紙は本研究科所定の様式を用いること。

(3) 提出条件

レポートを提出するためには、特別の理由が無い限り 70 % 以上の出席が必要。

(4) 提出期限

応用生化学特論Ⅰ 令和5年 8月 3日（木）17時

応用生化学特論Ⅱ 令和6年 1月 4日（木）17時

3. 免疫科学特論

(1) レポート内容

医学系研究科にて前期に開講される「免疫科学（座学）」と、後期に開講される「免疫科学（ISTU）」の両方を受講すること。

すべての講義受講後に「ISTU 受講レポート」を作成し、薬学研究科教務係へ提出すること。

(2) 様式

薬学研究科教務係より「免疫科学（座学）」合格者宛てにデータにて配布する。

(3) 提出期限

令和6年 1月12日（金）17時

4. 有機化学特別講義

(1) レポート内容

薬学研究科セミナーや学内外の発表会・学会・シンポジウム等で行われる講演（1 講演あたり 40 分程度以上のものを対象とする。）を 8 講演聴講して、それぞれの講演の内容、感想・意見を 2,000 字以上でまとめること。レポート 8 編のうち、少なくとも 2 編は英語でのレポートとすること（英語レポートは A 4 版用紙 2 ページに 1,000 words 程度でまとめること）。

(2) 様式

A 4 版用紙（横書き）。表紙は本研究科所定の様式を用いること。

(3) 提出期限

✓ 修了要件上、前期終了時まで単位認定が必要な者

：令和5年 9月 8日（金）17時

✓ その他（単位認定は令和6年3月）：令和6年 2月16日（金）17時

5. 1～4 のレポートは、薬学研究科レポートボックスまたは薬学研究科教務係宛て郵送（提出期限日必着）にて提出すること。

6. 医薬品化学特論、有機化学特論、食と農免疫特論、有機化学特論 A、有機化学特論 B、医用オミクス特論、分子イメージング特論

講義の中で別途連絡する。

※ この様式をコピーもしくは、同様に作成し必ず表紙とすること。

薬学研究科特論レポート

特 論 名 : _____ 特 論

講 義 題 目 : _____

講義担当者 _____ 先 生

講義実施日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

提出者 :

学籍番号 _____ 氏 名 _____

所属分野 _____

提 出 日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

科目ナンバリングについて

科目ナンバリングは、科目間の連携や科目内容の難易度を表すためにつけられている番号である。
科目ごとの番号については、次ページ以降を参照すること。

(例) $\underline{Y}$ $\underline{MP}$ - $\underline{PHA}$ $\underline{5}$ $\underline{71}$ $\underline{J}$
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥

<コードの意味>

- ① 授業開設部局 ・ ・ ・ 薬学研究科専門科目はすべて Y となる。
- ② 学科・専攻 ・ ・ ・ 分子薬科学専攻科目は MP、生命薬科学専攻科目は LP、医療薬学専攻科目は PH となる。
- ③ 学問分野 ・ ・ ・ 薬学研究科専門科目はすべて PHA となる。
- ④ レベル・性格 ・ ・ ・ 前期2年の課程の基礎的な内容の科目：5、発展的な内容の科目および研究指導科目：6、後期3年の課程および薬学履修課程の専門的な科目：7
- ⑤ 分類番号 ・ ・ ・ 学問分野ごとに通し番号を付番している。
- ⑥ 使用言語 ・ ・ ・ 薬学研究科専門科目はすべて J（日本語で開講）となる。

⑤分類番号については、十の位の番号で下記のとおり学問分野を区別する。

	前期2年の課程・後期3年の課程	薬学履修課程
1	分子解析学	共通
2	有機化学	臨床薬学
3	医薬品化学	腫瘍薬学
4	生物化学	生活習慣病治療薬学
5	薬効学	病態分子薬学
6	医療薬学	—
7	分子薬科学	医薬品評価学
8	生命薬科学	医療薬学
9	その他	その他
0	課題研究	課題研究

科目ナンバリングコード一覧

前期 2 年の課程

専攻	授業科目	①	②	③	④	⑤
分子薬科学専攻	分子薬科学特論Ⅰ	Y	MP	PHA	5	71
	分子薬科学特論Ⅱ	Y	MP	PHA	6	71
	有機化学特論	Y	MP	PHA	5	21
	医療薬学特論	Y	MP	PHA	5	61
	応用医療薬学特論	Y	MP	PHA	5	62
	応用生化学特論Ⅰ	Y	MP	PHA	5	41
	応用生化学特論Ⅱ	Y	MP	PHA	5	45
	分子解析学特論	Y	MP	PHA	5	11
	薬効学特論	Y	MP	PHA	5	51
	生物化学特論	Y	MP	PHA	5	42
	医薬品化学特論	Y	MP	PHA	5	31
	免疫科学特論	Y	MP	PHA	5	43
	有機化学特論A	Y	MP	PHA	5	22
	有機化学特論B	Y	MP	PHA	5	23
	食と農免疫特論	Y	MP	PHA	5	44
	医用オミクス特論	Y	MP	PHA	5	91
	有機化学特別講義	Y	MP	PHA	5	25
	医療薬学特別講義	Y	MP	PHA	5	63
	分子薬科学セミナーⅠ	Y	MP	PHA	5	72
	分子薬科学セミナーⅡ	Y	MP	PHA	6	72
	課題研究	Y	MP	PHA	6	00
	海外研修	Y	MP	PHA	6	90
生命薬科学専攻	生命薬科学特論Ⅰ	Y	LP	PHA	5	81
	生命薬科学特論Ⅱ	Y	LP	PHA	6	81
	有機化学特論	Y	LP	PHA	5	21
	医療薬学特論	Y	LP	PHA	5	61
	応用医療薬学特論	Y	LP	PHA	5	62
	応用生化学特論Ⅰ	Y	LP	PHA	5	41
	応用生化学特論Ⅱ	Y	LP	PHA	5	45
	分子解析学特論	Y	LP	PHA	5	11
	薬効学特論	Y	LP	PHA	5	51
	生物化学特論	Y	LP	PHA	5	42
	医薬品化学特論	Y	LP	PHA	5	31
	免疫科学特論	Y	LP	PHA	5	43
	食と農免疫特論	Y	LP	PHA	5	44
	医用オミクス特論	Y	LP	PHA	5	91
	有機化学特別講義	Y	LP	PHA	5	25
	医療薬学特別講義	Y	LP	PHA	5	63
	生命薬科学セミナーⅠ	Y	LP	PHA	5	82
	生命薬科学セミナーⅡ	Y	LP	PHA	6	82
	課題研究	Y	LP	PHA	6	00
	海外研修	Y	LP	PHA	6	90

後期 3 年の課程

専攻	授業科目	①	②	③	④	⑤
分子薬科学専攻	医薬製造化学特別演習Ⅰ	Y	MP	PHA	7	31
	医薬製造化学特別演習Ⅱ	Y	MP	PHA	7	32
	分子設計化学特別演習Ⅰ	Y	MP	PHA	7	21
	分子設計化学特別演習Ⅱ	Y	MP	PHA	7	22
	合成制御化学特別演習Ⅰ	Y	MP	PHA	7	23
	合成制御化学特別演習Ⅱ	Y	MP	PHA	7	24
	反応制御化学特別演習Ⅰ	Y	MP	PHA	7	25
	反応制御化学特別演習Ⅱ	Y	MP	PHA	7	26
	分子変換化学特別演習Ⅰ	Y	MP	PHA	7	33
	分子変換化学特別演習Ⅱ	Y	MP	PHA	7	34
	医薬資源化学特別演習Ⅰ	Y	MP	PHA	7	35
	医薬資源化学特別演習Ⅱ	Y	MP	PHA	7	36
	界面物性化学特別演習Ⅰ	Y	MP	PHA	7	21
	界面物性化学特別演習Ⅱ	Y	MP	PHA	7	22
	生物構造化学特別演習Ⅰ	Y	MP	PHA	7	23
	生物構造化学特別演習Ⅱ	Y	MP	PHA	7	24
	分子動態解析学特別演習Ⅰ	Y	MP	PHA	7	25
	分子動態解析学特別演習Ⅱ	Y	MP	PHA	7	26
	分子イメージング薬学特別演習Ⅰ	Y	MP	PHA	7	27
	分子イメージング薬学特別演習Ⅱ	Y	MP	PHA	7	28
生命薬科学専攻	分子薬科学特別演習Ⅰ	Y	MP	PHA	7	71
	分子薬科学特別演習Ⅱ	Y	MP	PHA	7	72
	分子薬科学特別研究	Y	MP	PHA	7	00
	海外特別研修	Y	MP	PHA	7	90
	薬理学特別演習Ⅰ	Y	LP	PHA	7	51
	薬理学特別演習Ⅱ	Y	LP	PHA	7	52
	臨床分析化学特別演習Ⅰ	Y	LP	PHA	7	21
	臨床分析化学特別演習Ⅱ	Y	LP	PHA	7	22
	分子細胞生化学特別演習Ⅰ	Y	LP	PHA	7	41
	分子細胞生化学特別演習Ⅱ	Y	LP	PHA	7	42
生命薬科学専攻	薬物送達学特別演習Ⅰ	Y	LP	PHA	7	53
	薬物送達学特別演習Ⅱ	Y	LP	PHA	7	54
	衛生化学特別演習Ⅰ	Y	LP	PHA	7	55
	衛生化学特別演習Ⅱ	Y	LP	PHA	7	56
	代謝制御薬学特別演習Ⅰ	Y	LP	PHA	7	43
	代謝制御薬学特別演習Ⅱ	Y	LP	PHA	7	44
	遺伝子制御薬学特別演習Ⅰ	Y	LP	PHA	7	45
	遺伝子制御薬学特別演習Ⅱ	Y	LP	PHA	7	46
	生命機能解析学特別演習Ⅰ	Y	LP	PHA	7	47
	生命機能解析学特別演習Ⅱ	Y	LP	PHA	7	48
生命薬科学専攻	生命薬科学特別演習Ⅰ	Y	LP	PHA	7	81
	生命薬科学特別演習Ⅱ	Y	LP	PHA	7	82
	生命薬科学特別研究	Y	LP	PHA	7	00
	海外特別研修	Y	LP	PHA	7	90

薬学履修課程

<医療薬学コース>

専攻	授業科目	①	②	③	④	⑤
医療薬学専攻	医療薬学特別講義Ⅰ	Y	PH	PHA	7	11
	医療薬学特別講義Ⅱ	Y	PH	PHA	7	12
	医用オミクス特論	Y	PH	PHA	7	91
	臨床薬学特別演習Ⅰ	Y	PH	PHA	7	21
	臨床薬学特別演習Ⅱ	Y	PH	PHA	7	22
	がん化学療法薬学特別演習Ⅰ	Y	PH	PHA	7	31
	がん化学療法薬学特別演習Ⅱ	Y	PH	PHA	7	32
	生活習慣病治療薬学特別演習Ⅰ	Y	PH	PHA	7	41
	生活習慣病治療薬学特別演習Ⅱ	Y	PH	PHA	7	42
	病態分子薬学特別演習Ⅰ	Y	PH	PHA	7	51
	病態分子薬学特別演習Ⅱ	Y	PH	PHA	7	52
	医薬品評価学特別演習Ⅰ	Y	PH	PHA	7	71
	医薬品評価学特別演習Ⅱ	Y	PH	PHA	7	72
	社会薬学マネジメント特別演習Ⅰ	Y	PH	PHA	7	92
	社会薬学マネジメント特別演習Ⅱ	Y	PH	PHA	7	93
	医療薬学特別演習Ⅰ	Y	PH	PHA	7	81
	医療薬学特別演習Ⅱ	Y	PH	PHA	7	82
	医療薬学特別研究	Y	PH	PHA	7	00
	海外特別研修	Y	PH	PHA	7	90

<腫瘍専門薬剤師養成コース>

専攻	授業科目	①	②	③	④	⑤
医療薬学専攻	医療薬学特別講義Ⅰ	Y	PH	PHA	7	11
	医療薬学特別講義Ⅱ	Y	PH	PHA	7	12
	臨床腫瘍学特別講義Ⅰ	Y	PH	PHA	7	33
	臨床腫瘍学特別講義Ⅱ	Y	PH	PHA	7	34
	臨床腫瘍学特別講義Ⅲ	Y	PH	PHA	7	35
	医用オミクス特論	Y	PH	PHA	7	91
	がん薬物療法学演習	Y	PH	PHA	7	36
	臨床薬学特別演習Ⅰ	Y	PH	PHA	7	21
	臨床薬学特別演習Ⅱ	Y	PH	PHA	7	22
	がん化学療法薬学特別演習Ⅰ	Y	PH	PHA	7	31
	がん化学療法薬学特別演習Ⅱ	Y	PH	PHA	7	32
	生活習慣病治療薬学特別演習Ⅰ	Y	PH	PHA	7	41
	生活習慣病治療薬学特別演習Ⅱ	Y	PH	PHA	7	42
	病態分子薬学特別演習Ⅰ	Y	PH	PHA	7	51
	病態分子薬学特別演習Ⅱ	Y	PH	PHA	7	52
	医薬品評価学特別演習Ⅰ	Y	PH	PHA	7	71
	医薬品評価学特別演習Ⅱ	Y	PH	PHA	7	72
	社会薬学マネジメント特別演習Ⅰ	Y	PH	PHA	7	92
	社会薬学マネジメント特別演習Ⅱ	Y	PH	PHA	7	93
	医療薬学特別演習Ⅰ	Y	PH	PHA	7	81
	医療薬学特別演習Ⅱ	Y	PH	PHA	7	82
	がん専門薬剤師実習	Y	PH	PHA	7	37
	医療薬学課題研究D C	Y	PH	PHA	7	00
	海外特別研修	Y	PH	PHA	7	90

<スーパージェネラリスト・ファーマシスト養成コース>

専攻	授業科目	①	②	③	④	⑤
医療薬学専攻	医療薬学特別講義Ⅰ	Y	PH	PHA	7	11
	医療薬学特別講義Ⅱ	Y	PH	PHA	7	12
	スーパージェネラリスト・ファーマシスト養成セミナー	Y	PH	PHA	7	13
	臨床腫瘍学特別講義Ⅰ	Y	PH	PHA	7	33
	臨床腫瘍学特別講義Ⅱ	Y	PH	PHA	7	34
	臨床腫瘍学特別講義Ⅲ	Y	PH	PHA	7	35
	医用オミクス特論	Y	PH	PHA	7	91
	ゲノム解析学演習	Y	PH	PHA	7	43
	メタボローム解析演習	Y	PH	PHA	7	36
	病態解析学演習	Y	PH	PHA	7	23
	臨床薬学特別演習Ⅰ	Y	PH	PHA	7	21
	臨床薬学特別演習Ⅱ	Y	PH	PHA	7	22
	がん化学療法薬学特別演習Ⅰ	Y	PH	PHA	7	31
	がん化学療法薬学特別演習Ⅱ	Y	PH	PHA	7	32
	生活習慣病治療薬学特別演習Ⅰ	Y	PH	PHA	7	41
	生活習慣病治療薬学特別演習Ⅱ	Y	PH	PHA	7	42
	病態分子薬学特別演習Ⅰ	Y	PH	PHA	7	51
	病態分子薬学特別演習Ⅱ	Y	PH	PHA	7	52
	医薬品評価学特別演習Ⅰ	Y	PH	PHA	7	71
	医薬品評価学特別演習Ⅱ	Y	PH	PHA	7	72
	社会薬学マネジメント特別演習Ⅰ	Y	PH	PHA	7	92
	社会薬学マネジメント特別演習Ⅱ	Y	PH	PHA	7	93
	医療薬学特別演習Ⅰ	Y	PH	PHA	7	81
	医療薬学特別演習Ⅱ	Y	PH	PHA	7	82
	ゲノム解析実習Ⅰ	Y	PH	PHA	7	44
	ゲノム解析実習Ⅱ	Y	PH	PHA	7	45
	メタボローム解析実習Ⅰ	Y	PH	PHA	7	37
	メタボローム解析実習Ⅱ	Y	PH	PHA	7	38
	ローテーション実習Ⅰ	Y	PH	PHA	7	24
	ローテーション実習Ⅱ	Y	PH	PHA	7	25
	医療薬学課題研究D C	Y	PH	PHA	7	00
	海外特別研修	Y	PH	PHA	7	90

薬学研究科 分子薬科学専攻

博士課程前期2年の課程 および 後期3年の課程 カリキュラムマッピング

博士課程前期		博士課程後期			教養の涵養
1年次	2年次	1年次	2年次	3年次	
生物化学特論 薬効学特論 医療薬学特論 応用医療薬学特論 医療薬学特別講義 応用生化学特論Ⅰ／Ⅱ 食と農免疫特論 免疫科学特論					
分子解析学特論 分子イメージング特論 医薬品化学特論 有機化学特論 有機化学特論A 有機化学特論B 有機化学特別講義 医用オミクス特論 分子薬科学特論Ⅰ／Ⅱ 分子薬科学セミナーⅠ／Ⅱ		医薬製造化学特別演習Ⅰ／Ⅱ 分子設計化学特別演習Ⅰ／Ⅱ 合成制御化学特別演習Ⅰ／Ⅱ 反応制御化学特別演習Ⅰ／Ⅱ 分子変換化学特別演習Ⅰ／Ⅱ 医薬資源化学特別演習Ⅰ／Ⅱ 界面物性化学特別演習Ⅰ／Ⅱ 生物構造化学特別演習Ⅰ／Ⅱ 分子動態解析学特別演習Ⅰ／Ⅱ 分子イメージング薬学特別演習Ⅰ／Ⅱ 分子薬科学特別演習Ⅰ／Ⅱ			
課題研究 海外研修		分子薬科学特別研究 海外特別研修			

専門の修養	真理の探究
-------	-------

薬学研究科 生命薬科学専攻
 博士課程前期2年の課程 および 後期3年の課程 カリキュラムマッピング

博士課程前期		博士課程後期			教養の涵養	専門の修養	真理の探究	国際感覚の鍛錬	
1年次	2年次	1年次	2年次	3年次					
分子解析学特論 分子イメージング特論 医薬品化学特論 有機化学特論 有機化学特別講義									
生物化学特論 薬効学特論 医療薬学特論 応用医療薬学特論 医療薬学特別講義 応用生化学特論Ⅰ／Ⅱ 食と農免疫特論 免疫科学特論 医用オミクス特論 生命薬科学特論Ⅰ／Ⅱ 生命薬科学セミナーⅠ／Ⅱ		薬理学特別演習Ⅰ／Ⅱ 臨床分析化学特別演習Ⅰ／Ⅱ 分子細胞生化学特別演習Ⅰ／Ⅱ 薬物送達学特別演習Ⅰ／Ⅱ 衛生化学特別演習Ⅰ／Ⅱ 代謝制御薬学特別演習Ⅰ／Ⅱ 遺伝子制御薬学特別演習Ⅰ／Ⅱ 生命機能解析学特別演習Ⅰ／Ⅱ 生命薬科学特別演習Ⅰ／Ⅱ							
課題研究 海外研修		生命薬科学特別研究 海外特別研修							

薬学研究科 薬学履修課程
 <医療薬学コース> カリキュラムマッピング

1年次	2年次	3年次	4年次
-----	-----	-----	-----

医療薬学特別講義Ⅰ
医療薬学特別講義Ⅱ
医用オミクス特論

臨床薬学特別演習Ⅰ／Ⅱ
がん化学療法薬学特別演習Ⅰ／Ⅱ
生活習慣病治療薬学特別演習Ⅰ／Ⅱ
病態分子薬学特別演習Ⅰ／Ⅱ
医薬品評価学特別演習Ⅰ／Ⅱ
社会薬学マネジメント特別演習Ⅰ／Ⅱ
医療薬学特別演習Ⅰ／Ⅱ

医療薬学特別研究
海外特別研修

教養の涵養

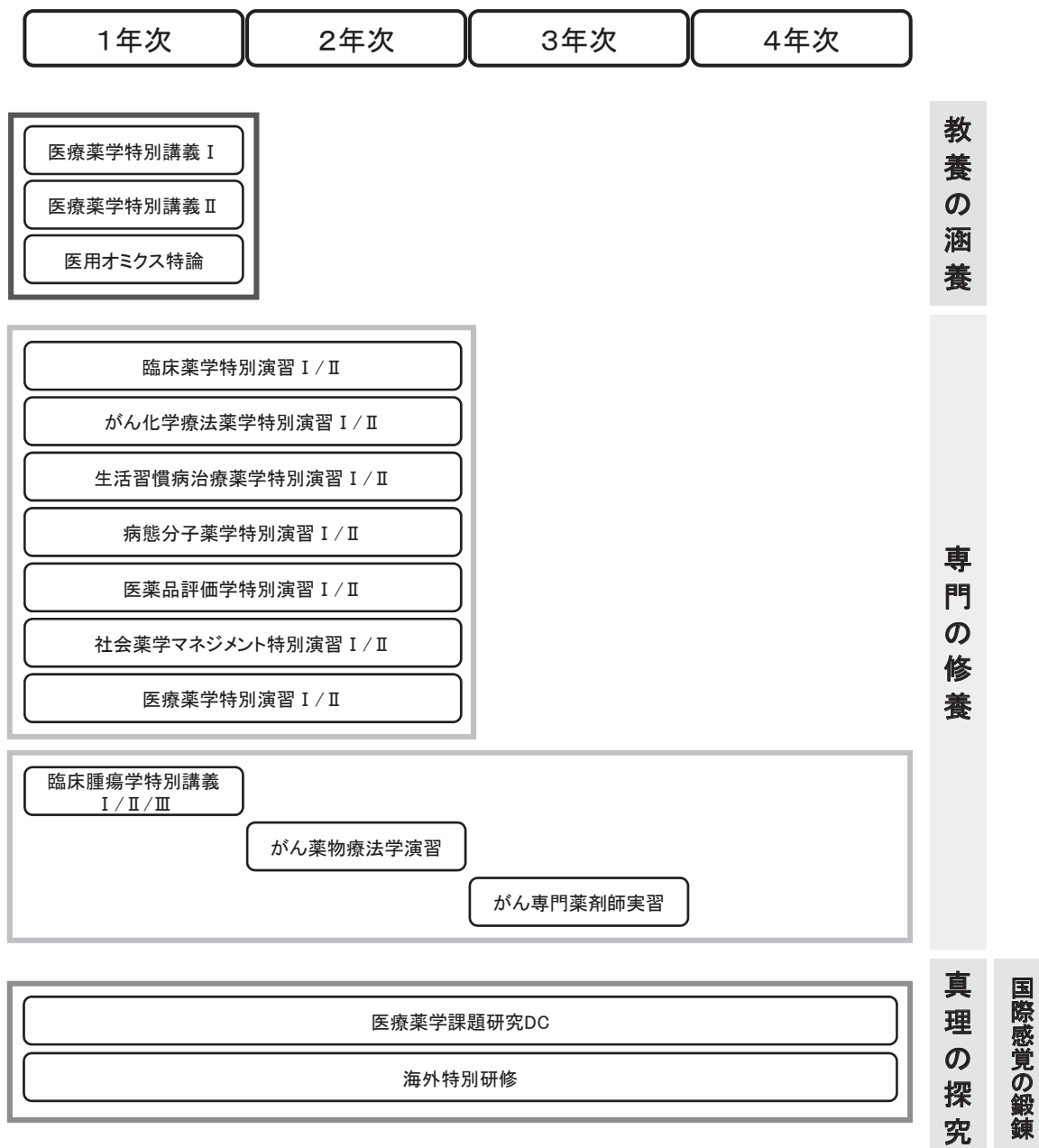
専門の修養

真理の探究

国際感覚の鍛錬

薬学研究科 薬学履修課程

＜腫瘍専門薬剤師養成コース＞ カリキュラムマッピング



薬学研究科 薬学履修課程

<スーパージェネラリスト・ファーマシスト養成コース> カリキュラムマッピング

1年次

2年次

3年次

4年次

医療薬学特別講義Ⅰ

医療薬学特別講義Ⅱ

医用オミクス特論

臨床薬学特別演習Ⅰ／Ⅱ

がん化学療法薬学特別演習Ⅰ／Ⅱ

生活習慣病治療薬学特別演習Ⅰ／Ⅱ

病態分子薬学特別演習Ⅰ／Ⅱ

医薬品評価学特別演習Ⅰ／Ⅱ

社会薬学マネジメント特別演習Ⅰ／Ⅱ

医療薬学特別演習Ⅰ／Ⅱ

ゲノム解析学演習

メタボローム解析演習

病態解析学演習

臨床腫瘍学特別講義
Ⅰ／Ⅱ／Ⅲ

ゲノム解析実習Ⅰ／Ⅱ

メタボローム解析実習Ⅰ／Ⅱ

ローテーション実習Ⅰ／Ⅱ

スーパージェネラリスト・
ファーマシスト養成セミナー

医療薬学課題研究DC

海外特別研修

教養の涵養

専門の修養

真理の探究

国際感覚の鍛錬

目 次

有 機 化 学 特 論	1
医 療 薬 学 特 論 ／DC 医療薬学特別講義Ⅰ	3
応 用 医 療 薬 学 特 論 ／DC 医療薬学特別講義Ⅱ	6
応 用 生 化 学 特 論 Ⅰ ・ Ⅱ	9
分 子 解 析 学 特 論	11
薬 効 学 特 論	13
生 物 化 学 特 論	15
医 薬 品 化 学 特 論	18
免 疫 科 学 特 論	20
有 機 化 学 特 論 A ・ B	22
食 と 農 免 疫 特 論	24
医 用 オ ミ ク ス 特 論	26
有 機 化 学 特 別 講 義	28
医 療 薬 学 特 別 講 義	29

授業科目名	有機化学特論	科目ナンバリング	YMP-PHA521J（分子薬科学専攻） YLP-PHA521J（生命薬科学専攻）	科目区分	選択必修
配当学年	MC1年	開講時間	木曜 9：00～12：00	単位数	2単位
担当教員	岩渕好治、土井隆行、吉戒直彦、眞鍋史乃、重野真徳、田原淳士				
実務・実践的授業		該当しない	使用言語	日本語	
授業概要	本特論では、新規医薬品の開発に求められる有機反応論の概念と論理体系、ならびに目的とする有機化合物を効率的に合成するための方法論を理解することを目的とする。これらを講義と演習によって習得する。				
到達目標	有機化合物の分子構造と物性および化学的反応性の相関を理解するための論理的アプローチ法とその合成化学的展開のための基礎力の修得を目標とする。				
授業方法	講義・演習・実習・体験学習・SGD・PBL・ロールプレイ・e-learning・その他（ ）				
回	講義日	担当	項目	授業内容	
1	6/1	重野 真徳	芳香族化合物の選択的な修飾反応	医薬品の母核として重要な芳香族化合物あるいは芳香複素環化合物の修飾反応について炭素アニオン化学およびラジカル化学の視点から幅広く理解し、その活用法を考える。	
2			同 演習	芳香環上に様々な置換基を導入する手法について演習を様々な方式で行い、理解力や表現力などの向上を図る。	
3	6/8	吉戒 直彦	遷移金属触媒化学	遷移金属錯体の構造、結合および反応性の基礎を習得し、それに立脚して様々な形式の遷移金属触媒反応とその医薬品合成への応用について学ぶ。	
4			同 演習	遷移金属触媒反応のメカニズムや応用に関する演習を行い、分析的・論理的思考力の向上を図る。	
5	6/15	吉戒 直彦	複素環合成化学	医薬品分子の骨格として重要な複素環を単純な出発物質から構築する手法について、古典的な縮合反応から最近の触媒反応までを含めて幅広く学ぶ。	
6			同 演習	複素環合成反応のメカニズムや応用に関する演習を行い、分析的・論理的思考力の向上を図る。	
7	6/22	重野 真徳	不活性結合の直截的変換反応	原料の入手容易さや合成ルートの刷新に繋がる点で重要とされる炭素－水素結合あるいは炭素－炭素結合等の直截的変換反応について学ぶ。	
8			同 演習	不活性とされる化学結合の変換反応に関して演習を様々な方式で行い、理解力や表現力などの向上を図る。	

9	6/29	土井 隆行 田原 淳士	計算化学基礎	計算化学は医薬品設計・解析において重要な役割を果たしている。分子力学計算および分子軌道計算の原理を学び、計算化学の基本を理解する。構造最適化によるエネルギー極小化、立体配座解析を理解する。
10			同 演習	SPARTAN を用いて演習を行い、上記について理解を深める。
11	7/6	土井 隆行 田原 淳士	計算化学応用	分子軌道計算を用いて HOMO, LUMO について学び、画像化して理解する。また、遷移状態構造解析について理解する。
12			同 演習	SPARTAN を用いて演習を行い、上記について理解を深める。
13	7/13	岩渕 好治	立体電子効果	有機化学反応の様々な局面で観測される官能基選択性、位置選択性および立体選択性を理解するために広く適用されているコンセプトである「立体電子効果」の基礎を習得する。
14			同 演習	有機化学反応を 3 次元的視点で捉えて、既存の反応や反応剤を効果的に活用するための発想力を養う。
15	7/20	眞鍋 史乃	糖鎖・複合糖質化学	糖鎖・複合糖質は生命現象に深く関わっている。生体内に存在する糖質の構造・化学合成の方法、糖鎖構造を基にした医薬品について学ぶ。
16			同 演習	講義の内容をもとに糖鎖・複合糖質の構築の合成計画をたてる演習・構造解析演習を行う。
成績評価法			筆記試験（８０％）と問題演習・レポートなどの平常点（２０％）をもとに評価する。	
教科書・参考書			それぞれの講義において、各担当者が参考書あるいは文献を紹介する。	
授業時間外学習			講義の内容について事前に関連の予備知識を整理しておくこと。講義後は、講義の内容についてさらに各自で学習を進めるなどして理解を深めること。	
オフィスアワー			メールなどでアポイントメントを取ってから来訪のこと。（学生便覧巻末参照）	
そ の 他			対面形式で実施予定	

授業科目名	医療薬学特論／ DC 医療薬学特別講義Ⅰ※		科目ナンバリン グ	YMP-PHA561J(MC 分子薬科学専攻) YLP-PHA561J(MC 生命薬科学専攻) YPH-PHA711J(DC 薬学履修課程)※	科目区 分	選 択 必 修 ／必修※
配当学年	MC 1 年／ DC 薬学履修課程 1 年※		開講時間	月曜 9：00～12：00		単位数 3 単位／ 2 単位※
担当教員	富岡佳久、平塚真弘、眞野成康、高橋信行、村井ユリ子、平澤典保、 佐賀利英、中林哲夫、小嶋文良、高橋則男、松本洋太郎、山口浩明					
実務・実践的授業			該当する		使用言語	日本語
授業概要	本特論では、病態の理解、実践的薬物治療計画及びアウトカムの評価、病態の知識に基づく創薬への貢献および市販後における評価、医薬品情報の評価、医薬品の適正使用、先導的専門性を有する薬剤師による医療サービスの実践・マネジメント例を学ぶ。更に疾病・病態の理解に基づいた最新の診断分析方法と個別化薬物療法を理解し、将来の医療薬学のあり方について考察を求め演習する。					
到達目標	自らが目指す先導的薬剤師としての役割を自覚し、将来の医療の担い手としての基本を説明できる。を目標とする。					
授業方法	講義・演習・実習・体験学習・SGD・PBL・ロールプレイ・e-learning・その他 ()					
回	講義日	担当	項目	授 業 内 容		
1	10/2	松本洋太郎	有機化学と薬剤師業務	薬剤師業務ならびに医薬品の幅広い理解に有機化学の考え方が重要であることを概説する。		
2			同 演習	有機化学が薬剤師業務のどのような場面で重要かを考察し、科学的思考の向上を図る。		
3	10/16	小嶋 文良	薬物療法のアウトカムの評価と臨床研究	薬剤師の役割として薬効評価や副作用の早期発見、また来局された方のトリアージが重要であり、そのためには患者のバイタルサインの評価が不可欠であることを理解する。		
4			同 演習	実際にバイタルサイン測定を行うときの注意点を身に付けるとともに薬剤師としてどのように評価するかを理解する。		
5	10/23	眞野 成康	最新化学診断法	質量分析法による各種疾患の化学診断法の進歩や、その技術を応用した TDM の実践並びにバイオマーカー探索に関する最新動向を理解する。		
6			同 演習	化学診断法に関する演習を様々な方式で行い、理解力や表現力などの向上を図る。		

7	10/30	中林 哲夫	医薬品開発から市販後安全対策まで	医薬品開発から市販後安全対策について、近年の薬事行政や国際的な動向も踏まえ、承認審査や市販後安全対策の実例を挙げながら概説できる。
8			同 演習	医薬品開発から市販後安全対策に関する演習を様々な方式で行い、理解力や表現力などを向上できる。
9	11/6	村井 ユリ子	医薬品情報の解析・評価と活用	医療への理解を深めるため、医薬品情報の観点から医薬品の適正使用について論じる。医療リスクコミュニケーションや医薬品情報専門薬剤師にも言及する。
10			同 演習	グループディスカッションやロールプレイング形式で様々な情報の解析・評価・活用に関する演習を行い、理解力や表現力などの向上を図る。
11	11/13	平塚 真弘	遺伝子多型診断による個別化薬物療法	薬物代謝酵素や薬物トランスポーターの遺伝子多型診断による医薬品の選択、投与量設定、副作用回避などに関する個別化薬物療法の臨床応用例を理解する。
12			同 演習	遺伝子多型診断による個別化薬物療法に関する演習を様々な方式で行い、理解や表現力などの向上を図る。
13	11/20	佐賀 利英	リスクマネジメントの理論と災害薬学	医療安全の基本的な考え方を学び、複雑な高度先進医療に参画する薬剤師として、災害に対してもリスクをマネジメントする重要性を理解する。
14			同 演習	医療現場でのインシデント実例を基に、ここで学んだ問題解決のための手法を用いて要因の解析と対策を立案する。更に、ここで習得した手法が説明できる。
15	11/27	高橋 信行	妊娠高血圧症候群の病態と治療	妊娠高血圧症候群について、その定義・分類や病態を学び、さらに現在行われている治療法とその問題点、今後向けての展望などを議論する。
16			同 演習	妊娠高血圧症候群に関する演習を様々な方式で行い、理解力や表現力などの向上を図る。
17	12/4	平澤 典保	糖尿病の薬物治療の進歩	糖尿病の発症と病態ならびに治療薬の作用機構について理解する。さらにその現状での問題点と最新の動向について理解する。
18			同 演習	糖尿病患者のいくつかの所見、検査値からそれぞれに適した処方設計を考察することにより、理解力などの向上を図る。

19	12/11	山口 浩明	トキシドロー ムと薬毒物検査	急性薬毒物中毒診療におけるトキシドロームの概念を理解するとともに、中毒原因物質の検査法について学ぶ。
20			同 演習	症状と所見に基づいたトキシドローム及び中毒物質の推定に関する演習を様々な方式で行い、理解力などの向上を図る。
21	12/18	高橋 則男	医療経済の理論と実践	主に病院経営や患者利益の観点から、薬剤経済学的なアプローチに関する理論と実践について理解する。バイオシミラーとジェネリック医薬品の位置づけを理解する。
22			同 演習	薬剤経済学に関する具体的例から理解を深める。
23	12/25	富岡 佳久	がん専門薬剤師の役割と責務	がん治療における専門薬剤師の役割について理解する。また、次代の治療をより安全かつ有効なものとするための研究の必要性について理解する。
24			同 演習	処方設計支援、副作用モニタリングや重篤化回避に関する演習を様々な様式で行い、理解力や表現力などの向上を図る。
25	未定	富岡 佳久 平塚 真弘 眞野 成康 高橋 信行 平澤 典保 松本洋太郎	特論特別講義	複数の特別講義の中から興味のあるものを各自一つ選択し、医療薬学における最新の知見を理解する。
26			同 演習	特別講義を聞いた内容を整理すると共にそれらをより正確な知識とするために関連する総説や論文を読んで理解を深める。また、それらをレポートにまとめるための訓練を行い、文章執筆能力を体得する。
成績評価法		演習における質疑応答とレポートを基礎に評価する。		
教科書・参考書		各講義内で指定する。		
授業時間外学習		予習として講義に関連する原著論文1報以上を選んで読んでくること。復習として講義に関連する総説論文1報以上を選んで読むこと。		
オフィスアワー		メールなどでアポイントを取ってから来訪のこと。 E-mail: yotaro.matsumoto.a5@tohoku.ac.jp TEL: 022-717-8746		
その他		※DC医療薬学専攻薬学履修課程		

授業科目名		応用医療薬学特論／ DC 医療薬学特別講義Ⅱ※		科目ナンバリング		YMP-PHA562J（分子薬科学専攻） YLP-PHA562J（生命薬科学専攻） YPH-PHA712J（DC 医療薬学専攻）※		科目区分		選択必修／ 必修※	
配当学年		MC 1 年／ DC 薬学履修課程 1 年※		開講時間		木曜 18：00～19：30		単位数		3 単位／ 2 単位※	
担当教員		高橋信行、平澤典保、土井隆行、古本祥三、富岡佳久、池田浩治、田代志門、後藤貴章、 松井直子、小原拓、菊池正史、鈴木裕之、山口拓洋、馬場啓聡、高山真									
実務・実践的演習				該当する		使用言語			日本語		
授業概要		新薬の価値はヒトを対象とした臨床試験および市販後調査での有効性、安全性の結果で決まる。本特論で臨床研究および臨床試験・治験を遂行する上で必要となる基本的な知識と技術を理解する。医薬開発を目指した基礎研究、質のよい臨床試験を実践するための、基礎知識、倫理、方策を学ぶ。									
到達目標		ヒトを対象とした臨床試験遂行に必須となる科学性と倫理性を理解した研究者・実践者になることを目標とする。									
授業方法		講義・演習・実習・体験学習・SGD・PBL・ロールプレイ・e-learning・その他（ ）									
回	講義日	担当		項目		授 業 内 容					
1	4/13	平澤 典保		病態モデルと薬効評価		創薬、ならびに適切な薬物療法を行うためには、病態を細胞・分子レベルで捉え、薬の作用機構について深く理解しておくことが必要である。そのためには、実験動物や細胞を用いた基礎研究で得られた知見を学ぶことも重要である。本講義では実験動物を用いた疾病モデルの有効性と限界について解説する。					
2	4/20	土井 隆行		創薬研究に対する有機化学の役割		ほとんどの医薬品が有機化合物であるということから、創薬研究に対して有機化学が果たす役割は非常に大きいと考えられている。特に、炭素や水素以外の原子を含む化合物の性質および化合物の三次元的な形に関して学ぶことは、大きな意義が有る。本講義では、創薬研究と有機化学との関わりを解説することを目的として、前半部では医薬品として用いられている有機化合物に関する基礎的な解説を行う。また、後半部では創薬研究の実際に関して解説を行い、全体を通して「有機化合物という見地からの創薬」に関して学ぶ。					
3	4/27	古本 祥三		臨床使用を目的とした PET 薬剤開発		PET は放射性薬剤(PET 薬剤)を用いる定量性に優れた生体画像化技術であり、小動物からヒトまで利用できる。新しい PET 薬剤の開発は、画像診断法の開発、薬物動態研究、薬効薬理評価、薬効機序の解明に大きく貢献する。本講義では、新しい PET 薬剤の開					

				発に関して、その分子設計から前臨床評価、安全性試験、そして臨床使用に至るまでの過程を学ぶ。
4	5/11	富岡 佳久	医療薬学分野におけるオミックス研究	オミックスは様々な分野での応用が期待されているが、特にバイオマーカー探索や病態評価による個別化医療への応用性がある。本講義では、特にメタボローム解析に注目し、血液・尿中、組織中の代謝物を網羅的に解析する有用性について概説する。
5	5/18	池田 浩治	臨床開発概論	医薬品・医療機器が臨床現場で使えるようにするためには、薬機法で規定する厚生労働大臣の承認を得る必要がある。そのために必要な資料を集め、当該製品の有効性及び安全性、品質を実証する業務の重要性について概説する。
6	5/25	田代 志門	臨床試験の倫理	医薬品開発のためには適切にデザインされた臨床試験が必須だが、臨床試験の方法論はそれ固有の倫理的課題を産み出す。本講義では特にランダム化とプラセボの倫理に関する国際的な議論動向を概説する。
7	6/1	後藤 貴章	臨床研究の適正実施を支える組織的な取り組み	臨床研究は未来のよりよい医療を実現するために必要であり、それらの適正な実施が強く求められる。本講義では、臨床研究の適正な実施を組織的に支える管理体制と取り組みについて概説する。
8	6/8	高橋 信行	妊娠高血圧症候群、preeclampsiaの病態と治療	妊娠高血圧症候群は急速に進行し、母児死亡を招きうる疾患である。本講義では、妊娠高血圧症候群の中で、特に重症な preeclampsia の病態と治療法についての最近の動向、今後の進歩への期待について概説する。また、妊娠高血圧症候群の合併症についても概説し、妊娠高血圧症候群の薬物療法についての理解を深める。
12	6/15	松井 直子	臨床研究・治験の支援－CRCの役割	質の高い臨床研究・治験を実施するためには、臨床研究コーディネーター（CRC）をはじめ、支援スタッフの協力が不可欠である。本講義では CRC の役割と業務について学ぶ。また、臨床的必要性の高い医薬品等について、医師自らが企画・立案して実施する医師主導治験の支援について紹介する。
10	6/22	小原 拓	デジタル社会における薬剤疫学研究と臨床試験	2021 年 9 月にデジタル庁が発足し、2021 年 12 月にはデジタル社会の実現に向けた重点計画が発表された。今後更に Dx 化が加速される中で、市販後医薬品の安全性評価や医薬品開発がどのように変化していくのかを例を交えて概説する。

11	6/29	菊地 正史	安全で有効な薬物療法を目指して -臨床現場での取り組み-	医薬品の治療効果を最大限に引き上げるいわゆる育薬の試みは、患者に多大な利益をもたらすだけでなく、医療費抑制の観点からも極めて重要となる。そこで、免疫抑制薬や分子標的抗がん薬の TDM を例に、臨床現場における安全で有効な薬物療法への取り組みを紹介する。
12	7/6	鈴木 裕之	抗がん剤開発の歴史と新規モダリティーの開発	抗がん剤開発の歴史と近年開発が盛んなバイオ医薬品について、抗体医薬やペプチド創薬等の新規モダリティーを中心に概説する。
13	7/13	山口 拓洋	医学研究におけるエビデンスとその解釈	エビデンスの流れと Evidence Based Medicine (EBM)、医学研究において統計学がなぜ必要か、医学研究のタイプと研究計画の目標について説明する。
14	7/20	馬場 啓聡	抗菌薬に関する基礎知識	医学が進歩した現在においても、感染症は公衆衛生上の大きな問題である。感染症の治療には抗菌薬が用いられる。しかし、抗菌薬は非常に汎用される薬剤であるがゆえに、正しく使われていない場面も散見される。PK-PD 理論が構築され、効率的な抗菌薬の投与が可能になったことを踏まえて、改めて抗菌薬の適正な使用方法について考察してみたい。
15	8/3	高山 真	漢方薬のエビデンスを学ぶ	漢方薬は臨床で幅広く用いられてきている。その臨床的、薬理的エビデンスはこの 10 年で構築されつつある。本講義では、漢方薬の適応やエビデンスについて学ぶ。
16	未定	平澤 典保 土井 隆行 富岡 佳久 高橋 信行	特論特別講義	複数の特別講義の中から興味のあるものを受講し、臨床研究、臨床試験に関する最新の知見を学び、その内容をレポートとしてまとめる。
17				
18				
19				
成績評価法		出席とレポートを基礎に評価する。		
教科書・参考書		各講義内で指定する。		
授業時間外学習				
オフィスアワー		メールなどでアポイントメントを取ってから来訪のこと。(学生便覧巻末参照)		
そ の 他		*DC 医療薬学専攻薬学履修課程 オンライン形式で実施予定(配信方法は 4 月以降に Classroom で通知予定)		

授業科目名	応用生化学特論 I	科目ナンバリング	YMP-PHA541 (分子薬科学専攻) YLP-PHA541 (生命薬科学専攻)	科目区分	選択必修
配 当 学 年	MC1 年	開講時間	水曜 9 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0	単 位 数	3 単位
担 当 教 員	東北大学大学院各研究科教員 他				
実 務 ・ 実 践 的 授 業		該当しない		使用言語	日本語
授 業 概 要	応用生化学特論 I は、農学研究科で開講される東北大学大学院生化学合同講義（4 月～7 月実施分のうち第 1～12 回の全 12 回分の講義）を聴講し、レポートを提出した者を対象に単位を与える。本講義は本学大学院薬学研究科博士課程前期 2 年の課程、理学研究科、工学研究科、農学研究科、生命科学研究科、環境科学研究科の博士課程前期 2 年の課程、および医学系研究科、歯学研究科博士課程の学生を対象として実施される合同講義であり、各研究科の教員が分担して最先端の生化学研究を紹介する。				
到 達 目 標	講義内容は多岐に渡るが、本特論の目標は、各講義を聴講理解する事により多様な生物とその生体分子のもつ広範な機能を遺伝子、分子、細胞、組織・器官、個体、更には個体・個体間（社会）のレベルで理解し、遺伝子、分子、組織、個体等の生物機能全般への知識を広げる事にある。				
授 業 方 法	講義・演習・実習・体験学習・SGD・PBL・ロールプレイ・e-learning・その他（ ）				
授 業 内 容					
4 月～7 月に行われる生化学合同講義を聴講すること。 講義予定および日程表は別途配付する。					
成績評価法	以下の要領で提出されたレポートにより評価する。 ① 1 科目につき 2 報のレポートを提出すること。 ② 講義題目のうち 2 題を選択し、各々の講義内容、感想・意見を 2,000 字以上でまとめること（英語で提出する場合は、レポート用紙 2 ページ程度にまとめること）。 ③ 薬学研究科に所属する教員以外の講義題目を選択すること。				
教科書・参考書	内容が多岐にわたるため、教科書等は特に設定していない。				
授業時間外学習	講義後は、講義の内容についてさらに各自で学習を進めるなどして理解を深めること。				
オフィスアワー	薬学研究科教務係 9 : 0 0 ~ 1 7 : 0 0（土・日・祝、1 2 : 0 0 ~ 1 3 : 0 0 を除く） pharm-kyom@grp.tohoku.ac.jp 022-795-6803				
そ の 他	基本的に対面形式を予定しているが、オンライン形式の場合もあり、4 月に通知予定 対面形式の場合は青葉山コモンズ大講義室で講義を行う オンライン形式の場合には 4 月に配信方法を通知予定				

授業科目名	応用生化学特論Ⅱ	科目ナンバリング	YMP-PHA545 (分子薬科学専攻) YLP-PHA545 (生命薬科学専攻)	科目区分	選択必修
配当学年	MC1年	開講時間	水曜 9:00～12:00	単位数	3単位
担当教員	東北大学大学院各研究科教員 他				
実務・実践的授業		該当しない		使用言語	日本語
授業概要	応用生化学特論Ⅱは、農学研究科で開講される東北大学大学院生化学合同講義（7月～12月実施分のうち第13～24回の全12回分の講義）を聴講し、レポートを提出した者を対象に単位を与える。本講義は本学大学院薬学研究科博士課程前期2年の課程、理学研究科、工学研究科、農学研究科、生命科学研究科、環境科学研究科の博士課程前期2年の課程、および医学系研究科、歯学研究科博士課程の学生を対象として実施される合同講義であり、各研究科の教員が分担して最先端の生化学研究を紹介する。				
到達目標	講義内容は多岐に渡るが、本特論の目標は、各講義を聴講理解する事により多様な生物とその生体分子のもつ広範な機能を遺伝子、分子、細胞、組織・器官、個体、更には個体・個体間（社会）のレベルで理解し、遺伝子、分子、組織、個体等の生物機能全般への知識を広げる事にある。				
授業方法	講義・演習・実習・体験学習・SGD・PBL・ロールプレイ・e-learning・その他（ ）				
授 業 内 容					
7月～12月に行われる生化学合同講義を聴講すること。 講義予定および日程表は別途配付する。					
成績評価法	以下の要領で提出されたレポートにより評価する。 ① 1科目につき2報のレポートを提出すること。 ② 講義題目のうち2題を選択し、各々の講義内容、感想・意見を2,000字以上でまとめること（英語で提出する場合は、レポート用紙2ページ程度にまとめること）。 ③ 薬学研究科に所属する教員以外の講義題目を選択すること。				
教科書・参考書	内容が多岐にわたるため、教科書等は特に設定していない。				
授業時間外学習	講義後は、講義の内容についてさらに各自で学習を進めるなどして理解を深めること。				
オフィスアワー	薬学研究科教務係 9:00～17:00（土・日・祝、12:00～13:00を除く） pharm-kyom@grp.tohoku.ac.jp 022-795-6803				
そ の 他	基本的に対面形式を予定しているが、オンライン形式の場合もあり、4月に通知予定 対面形式の場合は青葉山コモンズ大講義室で講義を行う オンライン形式の場合には4月に配信方法を通知予定				

授業科目名		分子解析学特論	科目ナンバリング	YMP-PHA511J（分子薬科学専攻） YLP-PHA511J（生命薬科学専攻）	科目区分	選択必修
配 当 学 年		MC1 年	開講時間	木曜 9：00～12：00	単 位 数	3 単位
担 当 教 員		大江知行、中林孝和、古本祥三、金野智浩、梶本真司				
実 務 ・ 実 践 的 授 業			該当しない		使用言語	日本語
授 業 概 要		生体内のイオンからタンパク質やDNAなどの生体高分子やバイオマテリアルなどの合成高分子にいたるまでの広範な分子の挙動を、主に物理化学的な原理に立脚して統一的に理解する方法論を学ぶ。さらに、これらの方法論が実際の機器分析法を通じて、生体分子の構造解析や医薬品の定量分析にどのように用いられているかを理解する。				
到 達 目 標		以下の項目の原理および実際例について理解する； バイオマテリアルの表面物性、ソフトマテリアルの材料特性、蛍光を用いたタンパク質・細胞解析、抗体の構造と機能、質量分析法による生体分子の解析、放射線を利用した分子イメージング、超解像顕微鏡による細胞観測。また、関連論文の読解力とレポート作成能力の向上にも努める。				
授 業 方 法		講義・演習・実習・体験学習・SGD・PBL・ロールプレイ・e-learning・その他（ ）				
回	講義日	担当	項目	授 業 内 容		
1	5/11	金野 智浩	バイオマテリアルの表面物性解析	生体分子や細胞材料と直接接触して使用されるバイオマテリアルの表面物性解析法である X 線光電子分光、動的接触角測定、表面電位測定の原理を理解し、これらの表面物性と生体分子群との相互作用について学ぶ。		
2			同 演習	バイオマテリアルの表面物性が生体反応に与える影響について、実例および最近の進展について学習し、理解力や表現力などの向上を図る。		
3	5/18	金野 智浩	ソフトマテリアルの材料物性解析	ハイドロゲルやナノ粒子などコロイドマテリアルの物性について学ぶ。特に動的粘弾性や粒子特性（粒径分布）などソフトマターに関する物性解析法について学び、これらの物性と生体組織との相互作用について理解する。		
4			同 演習	ソフトマテリアルの材料特性が生体反応に与える影響について、実例および最近の進展について学習し、理解力や表現力などの向上を図る。		
5	5/25	梶本 真司	超解像顕微鏡の原理と細胞観察への応用	回折限界を超えた空間分解能を持つ超解像顕微鏡について、その原理と実際のバイオイメージングへの応用について学ぶ。		
6			同 演習	超解像顕微鏡の基礎と細胞観察に関する演習を様々な方式で行い、理解力や表現力などの向上を図る。		

7	6/1	中林 孝和	蛍光を用いたタンパク質・細胞観察	光を用いることによって、一分子レベルで細胞内のタンパク質・分子の動きを可視化したり、pH などの細胞内環境の微小変化をその場検出することができる。本講義では、蛍光を用いた高感度検出の原理を学ぶ。
8			同 演習	蛍光の基礎とバイオサイエンスに関する演習を様々な方式で行い、理解力や表現力などの向上を図る。
9	6/8	大江 知行	低分子生理活性物質の質量分析	低分子生理活性物質の解析に利用される質量分析法と各種イオン化法の原理と特徴および最近の進歩について理解する。また、実際の例を学習しながら、特に生体成分の定量法を中心に理解する。
10			同 演習	低分子生理活性物質の質量分析に関する演習を様々な方式で行い、理解力や表現力などの向上を図る。
11	6/15	大江 知行	生体高分子の質量分析	生体高分子の解析に質量分析法がどのように利用されているのかを、最新の例を学習しながら理解する。特にタンパク質の網羅的解析、タンパク質の翻訳後修飾解析、タンパク質の化学修飾解析、タンパク質の定量解析を中心に理解する。
12			同 演習	生体高分子の質量分析に関する演習を様々な方法で行い、理解力や表現力などの向上を図る。
13	6/22	古本 祥三	PET 診断用放射性薬剤と核医学診断法	PET は放射性の診断プローブを用いる定量性に優れた生体内動態解析法であり、人を対象とする分子イメージング手法として医学診断分野や創薬研究においてその有用性が認められつつある。PET 画像解析法の基礎から応用に至るまでを概説するとともに最近の動向を解説する。
14			同 演習	画像診断法の実際および関連する薬剤に関する演習を様々な方式で行い、理解力や表現力などの向上を図る。
15	未定	大江 知行 中林 孝和 古本 祥三 金野 智浩 梶本 真司	特論特別講義	分子解析学における最新の知見を学ぶ。複数の特別講義の中から興味のあるものを各自一つ選択。
16			同 演習	特別講義を聞いた内容を整理すると共にそれらをより正確な知識とするために関連する総説や論文を読んで理解を深める。また、それらをレポートにまとめるための訓練を行い、文章執筆能力を体得する。
17				
18				
成績評価法		講義への出席を重視するとともに、演習における質疑応答とレポートを基礎に評価する。		
教科書・参考書		それぞれの講義において、各回担当者により参考書・参考文献を紹介する。		
授業時間外学習		授業内容について事前に関連の予備知識を整理しておくこと。講義後は、講義内容についてさらに各自で学習を進めるなどして理解を深めること。		
オフィスアワー		メールなどでアポイントメントを取ってから来訪のこと。（学生便覧巻末参照）		
そ の 他		対面形式で実施予定		

授業科目名	薬効学特論	科目ナンバリング	YMP-PHA551J（分子薬科学専攻） YLP-PHA551J（生命薬科学専攻）	科目区分	選択必修
配 当 学 年	MC 1 年	開講時間	月 曜 9：00～12：00	単 位 数	3 単位
担 当 教 員	松沢厚、佐々木拓哉、秋田英万、野口拓也、有村奈利子、櫻井遊				
実 務 ・ 実 践 的 授 業		該当しない		使用言語	日本語
授 業 概 要	本特論では、ストレス応答シグナルの創薬ターゲットとしての重要性、細胞死や炎症誘導の分子機構を基盤とした創薬開発、脳神経回路にもとづいた神経変性疾患、精神疾患及びそれらをターゲットとした創薬研究の意義、ドラッグデリバリーシステムおよび新薬開発における薬物速度論/薬力学を理解する。				
到 達 目 標	薬効学の基礎的重要事項を理解し、それらが創薬および医療薬学へ応用することの重要性を理解して説明できるようになることを目的とする。				
授 業 方 法	講義・演習・実習・体験学習・SGD・PBL・ロールプレイ・e-learning・その他（ ）				
回	講義日	担当	項目	授 業 内 容	
1	4/10	松沢 厚 野口 拓也	創薬ターゲットとしてのストレス応答シグナル	生体は、常に活性酸素や紫外線、病原体感染などの多様なストレスに晒されており、ストレス応答シグナルを介して、ストレスを感知し、適切な応答を行うことで恒常性を維持している。そのストレス応答シグナルの破綻が様々な疾患の原因となっており、本講義では、ストレス応答シグナル分子をターゲットとした創薬研究について解説する。	
2			同 演習	ストレス応答シグナル分子を標的とした創薬研究に関する演習を様々な方式で行い、新たな創薬探索研究技術の向上を図る。	
3	4/17	松沢 厚 野口 拓也	細胞死や炎症誘導の分子機構を基盤とした創薬開発	近年、細胞死誘導能の低下や過剰な炎症誘導が様々な疾患を引き起こすことが明らかとなってきた。このことから、細胞死や炎症誘導に関わる因子が創薬のターゲットとして注目されている。本講義では細胞死や炎症誘導の分子機構を解説し、それを基盤とした創薬開発への応用について考える。	
4			同 演習	細胞死や炎症誘導の分子基盤をもとに、創薬開発に関する演習を行い、新たな創薬探索研究技術の向上を図る。	
5	4/24	佐々木 拓哉	脳の神経回路の基礎動態と創薬研究	動物は様々な環境に適応するために、脳の神経回路は様々な事柄を学習し記憶する。また、これらの機能が正常に働かないとアルツハイマー病などの神経変性疾患が起こる。こうした疾患の創薬研究として、分子標的に加え、システムとしての神経回路動態に着目することの重要性を解説する。	
6			同 演習	脳神経回路の基礎動態をもとに、神経変性疾患の創薬開発に関する演習を行い、新たな標的探索研究技術の向上を図る。	

7	5/1	有村 奈利子	情動の基礎メカニズムと精神疾患治療	情動は、脳の様々な領域の複合的な活動の結果として表出し、本来は生存にとって重要な機能である。しかし、そのバランスが崩れると、うつ病などの精神疾患が起こる。こうした疾患の創薬研究として、神経回路の形成と関連する分子間相互作用を理解することの重要性を解説する。
8			同 演習	脳神経回路の基礎動態をもとに、精神疾患の創薬開発に関する演習を行い、新たな標的探索研究技術の向上を図る。
9	5/8	秋田 英万	遺伝子・核酸創薬のための DDS 技術	遺伝子や核酸を用いた医療技術の現状と本医療を実現するうえで重要な DDS 技術について解説する。
10			同 演習	DDS 技術開発に関する演習を様々な方式で行い、新たな創薬探索研究技術の向上を図る。
11	5/15	櫻井 遊	がん治療における DDS 技術	がんに対する DDS 技術の開発は、DDS 技術の中で最も研究が進められている分野である。がん選択的な薬物送達を可能とするがん組織の特徴的構造と現在のがん治療用 DDS や、その問題点などについて解説する。
12			同 演習	がんに対する DDS 技術開発に関する演習を様々な方式で行い、理解力や表現力などの向上を図る。
13	未定	松沢 厚 佐々木 拓哉	特論特別講義	薬効学における最新の知見を紹介する。複数の特別講義の中から興味のあるものを各自一つ選択。
14				
15		秋田 英万 野口 拓也 有村 奈利子 櫻井 遊	同 演習	特別講義を聞いた内容を整理すると共にそれらをより正確な知識とするために関連する総説や論文を読んで理解を深める。また、それらをレポートにまとめるための訓練を行い、文章執筆能力を養成する。
16				
17				
18				
成績評価法		演習における討議・発表・レポート等を基礎に総合的に評価する。		
教科書・参考書		各担当者が随時参考図書や文献を紹介する。		
授業時間外学習		到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められる。		
オフィスアワー		メールなどでアポイントメントを取ってから来訪のこと。(学生便覧巻末参照)		
その他		オンライン形式（オンデマンド配信）で実施予定		

授業科目名		生物化学特論	科目ナンバリング	YMP-PHA542J（分子薬科学専攻） YLP-PHA542J（生命薬科学専攻）	科目区分	選択必修
配当学年		MC1年	開講時間	月曜 9：00～12：00	単位数	3単位
担当教員		倉田祥一郎、斎藤芳郎、井上飛鳥、矢野環				
実務・実践的授業		該当しない		使用言語	日本語	
授業概要		本特論では、生命現象の分子基盤に関する最新の研究の進展について学び、これからの生物化学研究の方向性や創薬への応用研究の方向性を理解することを目的とする。更に演習を通して最新の生物化学の理解を深める。				
到達目標		生命科学の研究者や創薬研究者として将来活躍できるように、生命現象を分子基盤から理解して説明できるようになることを目的とする。				
授業方法		講義・演習・実習・体験学習・SGD・PBL・ロールプレイ・e-learning・その他（ ）				
回	講義日	担当	項目	授業内容		
1	6/5	井上 飛鳥	GPCR と創薬	G タンパク質共役型受容体（GPCR）は薬開発において最も重要かつ成功確率の高い標的タンパク質群であることが知られる。膜タンパク質である GPCR は構造研究には困難であるとされてきたが、ここ 10 年程の間に種々の構造解析技術の開発により原子分解能レベルにおける薬物とシグナル伝達の構造基盤の理解が大きく進んだ。本講義では、GPCR の構造研究やシグナル伝達研究の潮流を概説する。また、バイアスリガンドとして知られる薬と副作用の少ない次世代型 GPCR 創薬について解説する。		
2			同 演習	GPCR と GPCR 標的薬の構造やシグナル伝達に関する演習を様々な方式で行い、理解力や表現力などの向上を図る。		
3	6/12	井上 飛鳥	バイオインフォマティクス	近年の生命科学研究においては、ゲノムやトランスクリプトームに代表されるデータベースから情報を入手することは必須である。本講義では、これらデータベースから遺伝子情報やその生体機能をどのように調べるかを説明する。また、CRISPR-Cas9 システムによるゲノム編集を解説し、sgRNA 配列の設計を行う。さらに、バイオインフォマティクスの手法から解明されてきたガンを始めとする疾患と遺伝子変異、細胞情報伝達の機構を理解する。		
4			同 演習	バイオインフォマティクスに関する演習を様々な方式で行い、理解力や表現力などの向上を図る。		

5	6/19	矢野 環	オートファジー（自食作用）のもつ多彩な生理機能	オートファジーは酵母からヒトにまで保存された、細胞内の代謝回転に機能する分解系であるが、近年、感染防御や神経変性疾患等、その不全が様々な疾患の原因となることが明らかとなってきた。オートファジーの多彩な機構と制御、その生理的意義について解説する。
6			同 演習	オートファジーの生理機能に関する演習を様々な方式で行い、理解力や表現力などの向上を図る。
7	6/26	倉田祥一郎	自然免疫における病原体認識と排除の分子機構	自然免疫は、全ての多細胞生物が有する感染防御機構であり、近年その分子機構が急速に明らかにされた。自然免疫系が、遺伝子の再編成に頼らずに、多様な病原体を認識し、排除する分子機構を解説する。
8			同 演習	自然免疫における病原体認識と排除の分子機構に関する演習を様々な方式で行い、理解力や表現力などの向上を図る。
9	7/4 (火)	斎藤 芳郎	必須微量元素の代謝と疾患	必須微量元素は、存在量はわずかだが、その増減が恒常性に多大な影響を及ぼす。特に至適範囲の狭い元素として知られるセレンの生理作用、およびその代謝異常に伴う疾患について解説する。
10			同 演習	必須微量元素の生理作用およびその生体内制御機構に関する演習を様々な方式で行い、理解力や表現力などの向上を図る。
11	7/10	斎藤 芳郎	環境汚染物質の毒性と生体防御機構	環境汚染物質は様々な健康影響を生体を与える。一方、生体内にはこれら環境汚染物質の毒性に対して防御的に作用するシステムが存在する。この環境汚染物質による健康影響と防御機構について解説する。
12			同 演習	環境汚染物質の毒性および生体防御機構に関する演習を様々な方式で行い、理解力や表現力などの向上を図る。
13	未 定	倉田祥一郎 斎藤 芳郎 井上 飛鳥 矢野 環	特論特別講義	生物化学における最新の知見を紹介する。複数の特別講義の中から興味のあるものを各自一つ選択。
14			同 演習	特別講義を聞いた内容を整理すると共にそれらをより正確な知識とするために関連する総説や論文を読んで理解を深める。また、それらをレポートにまとめるための訓練を行い、文章執筆能力を養成する。
15				
16				
17				
18				
成績評価法		演習における討議・発表・レポート等による評価点、および特論特別講義のレポートの評価点をもとに総合的に評価する。		

教科書・参考書	全体としてはとくに示さないが、各担当者が、随時参考図書や文献を紹介する。
授業時間外学習	各担当者が紹介した参考図書や文献などを参考に、講義内容の理解に努め、演習をさらに発展させる。
オフィスアワー	メールなどでアポイントメントを取ってから来訪のこと。(学生便覧巻末参照)
そ の 他	対面形式で実施予定

授業科目名		医薬品化学特論	科目ナンバリング	YMP-PHA531J(分子薬科学専攻) YLP-PHA531J(生命薬科学専攻)	科目区分	選択必修
配 当 学 年		MC1 年	開講時間	木曜 9：00～12：00	単 位 数	2 単位
担 当 教 員		徳山英利、浅井禎吾、尾崎太郎、叶直樹、眞鍋史乃、安立昌篤、植田浩史、笹野裕介				
実務・実践的授業			該当しない		使用言語	日本語
授 業 概 要		本特論では、医薬品開発の重要な資源となる天然物、有機小分子、糖鎖、抗体などの分子群について有機金属化学、酵素化学、天然物化学、合成化学、糖鎖化学、抗体医薬の観点から多面的に学び、創薬に有用と考えられる、天然資源探索、標的探索、有機分子変換・構築法、分子設計法等の方法論を理解する。更に演習を通して医薬品化学の理解を深める。				
到 達 目 標		創薬研究に必要な最新の医薬開発の方法論を深く理解するとともに、将来研究開発の場で求められる知識や研究者としての判断力を身につけることを目標とする。				
授 業 方 法		講義・演習・実習・体験学習・SGD・PBL・ロールプレイ・e-learning・その他（ ）				
回	講義日	担当	項目	授 業 内 容		
1	10/5	笹野 裕介	生体有機金属化学	生命の維持には多種類の金属元素の存在が不可欠であることが知られており、生体内の金属元素の理解は薬学における重要な学習課題の1つである。本講義では、錯体化学の基礎を理解すると共に、金属酵素の代表例として酸化還元酵素を学習する。		
2			同 演習	生体有機金属化学に関する演習を様々な方式で行い、理解力や表現力などの向上を図る。		
3	10/12	尾崎 太郎	生合成酵素反応	天然物の複雑かつ多様な構造を作り出す様々な酵素の反応について、有機化学および構造生物学の観点から理解する。		
4			同 演習	酵素反応に関する演習を様々な方式で行い、理解力や表現力などの向上を図る。		
5	10/19	浅井 禎吾	生物合成化学	天然物の設計図は、生物のゲノム上に書き込まれている。これらを読み解くゲノムマイニングと活用する異種生産を理解し、ポストゲノム時代における新しい天然物探索・創製の可能性について考える。		
6			同 演習	天然物の生合成やゲノムマイニングに関する演習を様々な方式で行い、理解力や表現力などの向上を図る。(PC を使用します。)		

7	10/26	叶 直樹	生物活性物質の標的分子の探索法	生物活性物質の活性発現にはその標的となる生体高分子が大きく関わっており、一次標的分子を同定することは活性発現機構の解明に大きく役立つ。本講義では、生物活性天然物を例に取り、有機化学的手法を用いて標的分子を探索する最近の方法について理解する。
8			同 演習	生物活性物質の標的分子探索法に関する演習を様々な方式で行い、理解力や表現力などの向上を図る。
9	11/2	植田 浩史	生物活性物質の効率的合成法	医薬品のリード化合物となりうる生物活性物質を取り上げ、C-H 官能基化を含む最新の有機合成戦略に基づいた標的化合物の効率的な合成を理解する。
10			同 演習	生物活性物質の効率的合成法に関する演習を様々な方式で行い、理解力や表現力などの向上を図る。
11	11/9	徳山 英利	含窒素複素環化合物の効率的合成法	含窒素複素環は医薬品等の生物活性化合物に欠くことのできない基本骨格である。代表的な含窒素複素環の合成法を取り上げ、生物活性化合物の合成例を通して理解を深める。
12			同 演習	含窒素複素環化合物の効率的合成法に関する演習を様々な方式で行い、理解力や表現力などの向上を図る。
13	11/16	安立 昌篤	配糖化された生物活性物質の合成戦略	生物活性物質には配糖化されたものが数多く存在し、その糖鎖は活性発現などにおいて重要な役割を担っている。本講義では、炭素-炭素結合の構築を基盤とした糖鎖の化学合成法を取り上げ、代表的な合成例を通して理解を深める。
14			同 演習	C-グリコシル化反応によって糖鎖を導入する方法について演習を様々な方式で行い、理解力や表現方法などの向上を図る。
15	11/30	眞鍋 史乃	抗体医薬の基礎	抗体の化学修飾体である抗体-薬物複合体は、次世代抗体医薬品として期待される。抗体への低分子薬物の付加法、薬物の放出機構を有機化学的な見地から理解する。
16			同 演習	抗体-薬物複合体の効率的な設計法についての演習を行い、理解を深める。
成績評価法			筆記試験（80％）と問題演習・レポートなどの平常点（20％）をもとに評価する。	
教科書・参考書			それぞれの講義において、各担当者が参考書あるいは文献を紹介する。	
授業時間外学習			講義の内容について事前に関連の予備知識を整理しておくこと。講義後は、講義の内容についてさらに各自で学習を進めるなどして理解を深めること。	
オフィスアワー			メールなどでアポイントメントを取ってから来訪のこと。（学生便覧巻末参照）	
そ の 他			対面形式で実施予定	

授業科目名	免疫科学特論	科目ナンバリング	YMP-PHA543 (分子薬科学専攻) YLP-PHA543 (生命薬科学専攻)	科目区分	選択必修
配 当 学 年	MC1年	開講時間	座学：火曜 14:40～16:10 ISTU：24時間受講可	単 位 数	3単位
担 当 教 員	東北大学医学系研究科教員				
場 所	「免疫科学」(座学) … 医学系研究科 教育研究基盤支援棟(B06)2階・第1セミナー室 「免疫科学」(ISTU) … オンライン				
授 業 概 要	本特論は、医学系研究科で開講される「免疫科学」(座学)を聴講した上で、ISTUにより開講される「免疫科学」を受講し、レポートを提出した者を対象に単位を与える。				
授 業 方 法	講義・演習・実習・体験学習・SGD・PBL・ロールプレイ・e-learning・その他 (ISTU)				

◎医学系研究科開講「免疫科学」(座学)について

1. 授業題目

免疫科学

2. 授業の目的と概要

免疫学、微生物学及び感染症学の基礎と病態を理解する。基礎の領域では免疫細胞分化、免疫調節機構、ワクチンの原理などを学ぶ。臨床の領域では免疫関連疾患、移植免疫、感染症疫学などを学ぶ。

3. 学習の到達目標

- ・病原微生物の種類、特徴について説明できる。
- ・免疫制御機構を多角的視野から概説できる。
- ・アレルギー、自己免疫、免疫不全の病態を説明できる。
- ・感染症疫学の基本を説明できる。

4. 授業内容・方法と進度予定

○All classes will be conducted primarily in Japanese, although English handouts will be provided.

○講義資料(pdf)を講義2,3日前にGoogle Classroomに発出する。

※Zoomによる配信講義の場合は以下のURLを使用する。

<https://us02web.zoom.us/j/83153374605>

Meeting ID: 831 5337 4605

日程 Schedule

April 11 (Tue) General concept of microbiology, Prof. Ishii

微生物学：概論（石井直人） 対面、on site

18 (Tue) 休講 no class

25 (Tue) Vaccines, Prof. Oshitani

微生物学：病原体とワクチン（押谷仁） 形式未定

May 2 (Tue) Infection outbreak and herd immunity, Prof. Saito

感染症疫学：感染症アウトブレイクと集団免疫（斉藤繭子） 形式未定

9 (Tue) Basic concept of immunology 1, Prof. Ishii

免疫学：免疫学の基本概念 1（石井直人） 対面、on site

16 (Tue) Basic concept of immunology 2, Prof. Ishii

免疫学の基本概念 2（石井直人） 対面、on site

23 (Tue) Acquired immunity and innate immunity, Prof. Tayama

免疫学：獲得免疫と自然免疫（田山舜一） 対面、on site

30 (Tue) Cellular immunity, Prof. Ogasawara

免疫病態学：細胞性免疫と生体防御（小笠原康悦） 対面、on site

June 6 (Tue) Allergy and autoimmunity, Prof. Ishii

免疫病態学：アレルギー・自己免疫疾患（石井直人） 対面、on site

13 (Tue) Transplantation, HLA, Prof. Ishii

免疫病態：移植免疫、HLA と疾患（石井直人） 対面、on site

20 (Tue) Report assignment

レポート課題発出（石井直人）

5. 成績評価方法

成績評価は課題レポート（令和5年6月20日出題予定）で行い、筆記試験は実施しない。レポート課題出題と提出は Google Classroom で行い、締切を令和5年7月31日とする。

◎「免疫科学」(ISTU) について

- 諸分野で活躍する学内研究者による講演ビデオ（ISTU）により、免疫学及び感染症学の最新情報を取得する。また、研究の進め方の実際を学び、自身の研究活動の糧とする。
- ISTU にある講義ビデオのうち、10 個以上視聴すること。
すべての講義視聴後に、学習内容について「ISTU 受講レポート」を作成し、薬学研究科教務係へ提出すること。
- 「ISTU 受講レポート」の様式は、薬学研究科教務係より「免疫科学」（座学）合格者宛てにデータで配布する。
- 提出期限は、令和6年1月12日（金）とする。

授業科目名		有機化学特論A	科目ナンバリング	YMP-PHA522J (分子薬科学専攻)	科目区分	選択必修
配 当 学 年		MC1 年	開講時間	金曜 13:00～14:30	単 位 数	2 単位
担 当 教 員		石田真太郎 (理)、佐々木誠 (生命)、中村達 (理)、三ツ石方也 (工)、 石川 稔 (生命)、有本博一 (生命)、土井隆行 (薬)				
実務・実践的授業			該当しない	使用言語	日本語	
授 業 概 要		本特論では、有機化学の基礎から現代有機化学を学び、高度な研究を行うための基礎知識を習得する。				
到 達 目 標		有機分子の分子構造および化学反応を分子軌道法をもとに理解する。有機金属分子の構造とそれを用いる化学反応のしくみを理解する。				
授 業 方 法		講義・演習・実習・体験学習・SGD・PBL・ロールプレイ・e-learning・その他 ()				
回	講義日	担当	項目	授 業 内 容		
1 2 3	4/14 4/21 4/28	石田真太郎	有機典型元素化学 I 巻 7 章、8 章	有機元素化合物の構造について解説し、有機典型元素化学について述べる。		
4 5 6	5/12 5/19 5/26	佐々木誠	有機化学反応 I I 巻 6 章 6.1, 6.6	極性反応およびペリ環状反応について述べる。		
7 8 9	6/2 6/9 6/16	中村達	有機化学反応 II I 巻 5 章 5.3, 5.4, 6 章 6.2～6.4	ラジカル、およびカルベン中間体について解説し、ラジカル反応、カルベンの反応、および光化学反応について述べる。		
10 11 12	6/23 6/30 7/7	三ツ石方也	有機遷移金属錯体の構造、結合、および反応 I 巻 9 章、10 章	錯体の構造と結合について概説し、有機遷移金属錯体の反応について述べる。		
13 14 15	7/14 7/21 7/28	石川稔 有本博一	骨格形成反応 I II 巻 2 章 2.1～2.2	C=X 型結合への付加反応、および C=C 結合への付加反応について述べる。		
	8/4	石田真太郎	試験			
成績評価法		筆記試験をもとに評価する (100%)。				
教科書・参考書		大学院講義 有機化学 第2版、I. 分子構造と反応・有機金属化学、および II. 有機合成化学・生物有機化学、野依良治編集、東京化学同人				
授業時間外学習		講義の内容について教科書を読み予習すること。講義後は、講義の内容についてさらに各自で学習を進めるなどして理解を深めること。				
オフィスアワー		担当教員に講義後に質問する、あるいはメールで質問すること。連絡先が不明な場合は、土井に問い合わせること。Email: doi_taka@mail.pharm.tohoku.ac.jp				
そ の 他		担当教員により実施方法が異なる。各回の実施方法は4月以降に Classroom 内で通知する。 (対面形式の場合は理学研究科大講義室)				

授業科目名	有機化学特論 B	科目ナンバリング	YMP-PHA523J (分子薬科学専攻)	科目区分	選択必修
配 当 学 年	MC 1 年	開講時間	金曜 13:00~14:30	単 位 数	2 単位
担 当 教 員	高岡洋輔 (理)、吉戒直彦 (薬)、土井隆行 (薬)、森直紀 (理)、榎本賢 (農)				
実務・実践的授業		該当しない	使用言語	日本語	
授 業 概 要	本特論では、現代までに開発された合成反応を解説し、官能基変換・不斉合成法について述べ、それらを活用した多段階合成について説明する。				
到 達 目 標	現代における有機分子構築法について基礎的合成反応から新しい合成反応までを理解し、それらを組み合わせた多段階合成のデザインができるようになる。				
授 業 方 法	講義・演習・実習・体験学習・SGD・PBL・ロールプレイ・e-learning・その他 ()				
回	講義日	担当	項目	授 業 内 容	
1	10/6	高岡洋輔	骨格形成反応 II	Sp ³ 炭素上の置換反応、カップリング反応、メタセシスを解説する。	
2	10/13		II 巻 2 章 2.3~		
3	10/20		2.5		
4	10/27	土井隆行	骨格形成反応 III	π電子系の協奏的反応、および転位、脱離、開裂、光化学反応、並びに複素環化合物の反応について解説する。	
5	2 回		II 巻 2 章 2.6~2.8		
6	11/17				
7	11/24	吉戒直彦	官能基変換	還元、および酸化について述べる。	
8	12/1		II 巻 3 章		
9	12/8				
10	12/15	森直紀	有機合成反応にお	有機合成反応における選択性について解説し、不成合成反応について述べる。	
11	12/22		ける立体化学制御		
12	1/5		II 巻 1 章、4 章		
13	1/12	榎本賢	多段階反応のデザ	逆合成解析の基礎から、官能基相互変換・官能基付加・官能基移動を活用する逆合成について、および骨格転位・連続型結合生成に基づく逆合成、並びに光学活性体構築に向けた逆合成を解説し、保護基についても述べる。	
14	1/19		イン		
15	1/26		II 巻 5 章		
	2/2	高岡洋輔	試験		
成績評価法	筆記試験をもとに評価する(100%)。				
教科書・参考書	大学院講義 有機化学 第2版、I. 分子構造と反応・有機金属化学、および II. 有機合成化学・生物有機化学、野依良治編集、東京化学同人				
授業時間外学習	講義の内容について教科書を読み予習すること。講義後は、講義の内容についてさらに各自で学習を進めるなどして理解を深めること。				
オフィスアワー	担当教員に講義後に質問する、あるいはメールで質問すること。連絡先が不明な場合は、土井に問い合わせること。Email: doi_taka@mail.pharm.tohoku.ac.jp				
そ の 他	有機化学特論 A を習得しておくこと。 担当教員により実施方法が異なる。各回の実施方法は4月以降に Classroom 内で通知する。 (対面形式の場合は理学研究科大講義室)				

授業科目名	食と農免疫特論	科目ナンバリング		YMP-PHA544 (分子薬科学専攻) YLP-PHA544 (生命薬科学専攻)	科目区分	選択必修
配 当 学 年	MC 1 年	開講時間	金曜 14 : 40 ~ 16 : 10		単 位 数	2 単位
担 当 教 員	農学研究科 食と農免疫国際教育研究センター内教員 医学研究科教員、歯学研究科教員、薬学研究科教員					
実務・実践的授業		該当しない		使用言語	英 語	
授 業 概 要	This class aims to study the basic concepts of food and agricultural immunology and their application for drug-independent cultivation and food production. Each unit professor of the center and collaborative professor in Tohoku University will give the lectures to introduce their specific research relating to immunology field. This lecture is opened using ISTU (Internet School of Tohoku University). Students can view the video after registration.					
到 達 目 標	To understand the new study field of food and agricultural immunology and how to apply the concept for drug-independent cultivation and food production.					
授 業 方 法	講義・演習・実習・体験学習・SGD・PBL・ロールプレイ・e-learning・その他 (ISTU)					
授業内容・ 方法と進度 予定	1. Overview of food & agricultural immunology. (Dr. Haruki Kitazawa) 2. Overview of microbial ecology in animals, plants, and fish. (Dr. Wakako Ikeda-Ohtsubo) 3. Recognition and exclusion of pathogens in innate immunity.(Dr. Shoichiro Kurata) 4. Overview of innate immune system of mollusks and crustaceans. (Dr. Keisuke Takahashi) 5. Overview of immune system of fish and disease prevention study. (Dr. Toshiki Nakano) 6. Overview of plant immune system (Dr. Sugihiko Ando) 7. Overview of insect control system by plant immune system. (Dr. Masatoshi Hori) 8. Overview of functional food evaluation. (Dr. Hitoshi Shirakawa) 9. Overview of effects on human health relating to epigenetics. (Dr. Masahiko Harata) 10. Overview of plant response to environmental cues. (Dr. Yukihiro Ito) 11. Introduction of Immunology. (Dr. Naoto Ishii) 12. Mucosal Immunity from mouth to gut. (Dr. Shunji Sugawara) 13. Overview of mucosal immune system. (Dr. Tomonori Nochi) 14. Emerging Infectious Diseases. (Dr. Hitoshi Oshitani) 15. Food Safety and Society. (Dr. Katsuhito Fuyuki)					

成績評価法	Participation(30%), Reports(70%)
準備学修等	Participate in the International Food & Agricultural Immunology Lecture is highly recommended.
教科書・参考書	Textbook and references will be introduced by each professor. Video materials are also available.
時間外学修	It is important for students to acquire preliminary knowledge to prepare for class by reading relevant information and ocuments that are commonly available.
備考	本講義は ISTU によって開講されますが、Google classroom を通して情報発信することがあります。クラスコードやその他詳細については 4 月通知予定です。 Important! Student who want to use financial aid for study abroad from CFAI have to take this credit. Please check CFAI homepage carefully. http://www.agri.tohoku.ac.jp/cfai/ Instructors: Faculties in CFAI, Graduate School of Agricultural Science, Tohoku University, and Faculties in Tohoku University School of Medicine, Tohoku University Graduate School of Dentistry and Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Tohoku University, and Faculties in foreign institutions. Office hours: The time of day is not specified. Please make an appointment in advance by email. E-mail: sugihiro.ando.a2◎tohoku.ac.jp Please change "◎" to "@".

授業科目名	医用オミクス特論	科目ナンバリング	YMP-PHA591J（分子薬科学専攻） YLP-PHA591J（生命薬科学専攻） YPH-PHA791J（DC 医療薬学専攻）※	科目区分	自由聴講
配 当 学 年	MC 1 年／ DC 薬学履修課程 1 年※	開講時間	金曜 16：20～17：50	単 位 数	1 単位
担 当 教 員	眞野成康、布施昇男、三枝大輔、石濱 泰、平塚真弘、青木裕一、前川正充、川崎芳英				
実 務 ・ 実 践 的 授 業		該当する	使用言語	日本語	
授 業 概 要	医学研究の実施には、遺伝子やタンパク質、生理活性低分子等の様々な生体内分子の挙動の解析が重要である。本講義では、生体分子の解析に必要な手法の基礎から、それらを駆使した臨床における実践例について学ぶ。				
到 達 目 標	本講義を通して、受講生が自身の研究における生体分子解析学との関連性を理解する。				
授 業 方 法	講義・演習・実習・体験学習・SGD・PBL・ロールプレイ・e-learning・その他（ ）				
回	講義日	担当	項目	授 業 内 容	
1	10/13	眞野 成康	生体分子解析における基盤技術の解説	本講義では、遺伝子やタンパク質、生理活性低分子等の分離や検出技術に関する基礎を学ぶ。	
2	10/20	布施 昇男	ゲノム解析研究の新展開	本講義では、全ゲノム解析や SNP 解析、GWAS 解析等のゲノム解析研究を概説する。	
3	11/10	三枝 大輔	グローバルメタボロミクスとリポドミクス	本講義では、メタボロームの網羅的解析と、特に疾患との関連が指摘される脂質群の解析研究について概説する。	
4	11/17	石濱 泰	疾患プロテオミクス	本講義では、今日の医学研究に欠かせないプロテオーム解析について概説する。	
5	11/24	平塚 真弘	ファーマコゲノミクス	本講義では、個別化医療や精密医療の推進に不可欠なファーマコゲノミクスを概説する。	
6	12/1	青木 裕一	バイオインフォマティクス	本講義では、DNA や RNA、タンパク質、生体内小分子等の解析から得られる情報を統合して解析する研究について概説する。	
7	12/8	前川 正充	ターゲットメタボロミクスによる臨床化学研究	本講義では、各種疾患における生体内分子の挙動解析による診断マーカー等の探索に関する研究について概説する。	
8	12/15	川崎 芳英	疾患オミクス研究とその臨床応用	本講義では、疾患オミクス解析を実践し、実際に診療に適用している事例について紹介する。	

成績評価法	講義への出席回数とレポートによって判定する。
教科書・参考書	各講師が、適宜参考図書や文献等を紹介する。
授業時間外学習	講義内容の理解を深めるために、復習等の自主学習が重要である。
オフィスアワー	メールなどでアポイントメントを取ってから来訪のこと。(学生便覧巻末参照)
そ の 他	この授業はオムニバス形式で行う。 *DC 医療薬学専攻薬学履修課程 対面形式で実施予定だが、必要に応じてオンライン形式で実施する場合もある。

授業科目名	有機化学特別講義	科目ナンバリング	YMP-PHA525 (分子薬科学専攻) YLP-PHA525 (生命薬科学専攻)	科目区分	選択必修
配 当 学 年	MC 1 年			単 位 数	2 単位
担 当 教 員	浅井 禎吾				
実 務 ・ 実 践 的 授 業		該当しない	使用言語	日本語	
授 業 概 要	有機化学に関する講演を聴講し、有機化学に関する最新の研究の進展と今後の方向性について学ぶ。				
到 達 目 標	有機化学に関する最新の講演について、その概要と各自の考えをレポートとしてまとめ、知識と理解を深める。				
授 業 方 法	講義・演習・実習・体験学習・SGD・PBL・ロールプレイ・e-learning・ その他 (講演聴講)				
成績評価法	以下の要領で提出されたレポートにより評価する。 (1) レポート内容 薬学研究科セミナーや学内外の発表会・学会・シンポジウム等で行われる講演 (1 講演あたり 40 分程度以上のものを対象とする。) を 8 講演聴講して、それぞれの講演の内容、感想・意見を 2,000 字以上でまとめること。レポート 8 編のうち、少なくとも 2 編は英語でのレポートとすること (英語レポートは A4 版用紙 2 ページに 1,000 words 程度でまとめること)。 (2) 様式 A4 版用紙 (横書き)。表紙は本研究科所定の様式を用いること。 (3) 提出期限 大学院シラバス「大学院 特論レポートの提出について」に記載のとおり。				
教科書・参考書	内容が多岐にわたるため、教科書等は特に設定していない。				
授業時間外学習	講演内容の理解を深めるために、復習等の自主学習が重要である。				
オフィスアワー	連絡先：薬学研究科教務係 (pharm-kyom@grp.tohoku.ac.jp)				
そ の 他	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、実施状況や成績評価方法に変更が生じた場合には、別途指示する。				

授業科目名	医療薬学特別講義	科目ナンバリング	YMP-PHA563 (分子薬科学専攻) YLP-PHA563 (生命薬科学専攻)	科目区分	選択必修
配 当 学 年	MC 1 年			単 位 数	3 単位
担 当 教 員	薬学研究科教員				
実 務 ・ 実 践 的 授 業		該当しない	使用言語	日本語	
授 業 概 要	医療薬学に関する講演を聴講し、医療薬学に関する最新の研究の進展と今後の方向性について学ぶ。				
到 達 目 標	医療薬学に関する最新の講演について、その概要と各自の考えをレポートとしてまとめ、知識と理解を深める。				
授 業 方 法	講義・演習・実習・体験学習・SGD・PBL・ロールプレイ・e-learning・その他（講演聴講）				
成績評価法	以下の要領で提出されたレポートにより評価する。 （１）レポート内容 薬学研究科セミナーや学内外の発表会・学会・シンポジウム等で行われる講演（１講演あたり 40 分程度以上のものを対象とする。）を 10 講演聴講して、それぞれの講演の内容、感想・意見を 2,000 字以上でまとめること（英語で提出する場合は、レポートは A4 版用紙 2 ページに 1,000 words 程度でまとめること）。 （２）様式 A4 版用紙（横書き）。表紙は本研究科所定の様式を用いること。 （３）提出期限 大学院シラバス「大学院 特論レポートの提出について」に記載のとおり。				
教科書・参考書	内容が多岐にわたるため、教科書等は特に設定していない。				
授業時間外学習	講演内容の理解を深めるために、復習等の自主学習が重要である。				
オフィスアワー	薬学研究科教務係 9：00～17：00（土・日・祝、12：00～13：00を除く） pharm-kyom@grp.tohoku.ac.jp 022-795-6803				
そ の 他	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、実施状況や成績評価方法に変更が生じた場合には、別途指示する。 履修希望者は、履修登録期間中に薬学研究科教務係までメールで連絡すること。				



東北大学